


コスタリカ共和国			首都	サンホセ
 <p>赤は「労働者の紅潮した頬」、青は「空と海」、白は平和を表している。丸いのはエスクード（紋章）である。</p> <p>独立：1821/9/15 スペインより 国連加盟：1945/11/2 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 5万 1,000 km ² （九州の1.4倍） 中央部は平均高度 1000m のメセッタとよばれる高原台地が広がり、カリブ海側は北東部に低平地が開け、太平洋側は岬や湾が多い。台地の西側には火山群からなる山脈が走り、時折地震が発生する。	
		人口	430 万人	
		言語	スペイン語（公用語）	
		通貨	コロン	
		気候	両岸とも熱帯性気候で、太平洋側は乾燥、カリブ海側は高温多湿で年間降水量は 3000～4000mm に達し密林を形成している。高原部は温暖でサバナ気候から高山気候まで多様であり「中米のスイス」とよばれている。12～4 月が乾季、5 月～11 月が雨季である。	
		民族	スペイン系 97%、アフリカ系 2%、インディオ 1%	
		宗教	カトリック 85%、福音プロテスタント 14%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 歳から小学校 6 年、中・高等教育 5 年（中学校 3 年・高校 2 年）、大学（5～6 年）となっている。 ・ 公立の幼稚園（キンテル）と 6 年間の小学校（エスクエラ）と 5 年間の中学高校（コレヒオ）は無料、私立は有料、大学（ウニベルシダ）は国立・私立共に有料である。 ・ GDP の 6%を教育に充てることを憲法で謳っている。 ・ 国家予算の 20%を教育省に配分し教育普及率は中米随一といわれている。識字率は 96%(2005 年)。 		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務教育は中等教育までの 9 年間で 6 歳～14 歳の期間である。その年の 2 月 1 日までに満 6 歳 6 ヶ月になる者は、その年の 2 月の下旬に義務教育の第 1 学年に入学する。 ・ 小学校はすべての地域に設けられている。単位制で夜間も開校しているので、年齢に関係なく就学意欲のある者にはその機会が与えられる。 ・ 公立の小学校では、施設の不足から午前・午後の 2 部制をとっているところが多い。 ・ 多くの私立学校及び国際学校では、幼稚部を含めた一貫教 		

		<p>育を行っているので、同じ学校で高校まで修了することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校年度は2月上旬～12月下旬であり、2学期制をとっている。その内訳は、1学期は2月上旬～7月、2学期は8月～12月下旬である。 ・教科書は日本のように一人一人に配布されるのではなく、購入しなくてはならず、先生ごとに違うものを使っているため、兄弟でおさがりを使うことも出来ない。
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語による授業で、科目は、国語、算数・数学、理科、社会科、体育、音楽などのほか宗教が加わる。第2外国語は英語が主体であり、一部にフランス語も取り入れられている。 ・高等部では、英語とフランス語を行う。 ・第3外国語として、日本語を教えている学校もある。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校卒業時と高等部卒業時の2回、教育省の国家試験があり、そこで基準に達していなければ落第する。 ・大学進学希望者はこの試験に合格しないと大学入学試験が受けられない。 ・年齢に関係なく就学意欲のある者にはその機会が与えられ、中・高等教育や大学教育は勤労者にも広く開放されており、夜10時まで行われている。 ・大学教育においては奨学金の支給率も高く、何らかの奨学金を受けている者が多い。 ・国内に4つの国立大学及び30以上の私立大学、大学院修士課程取得のための国際機関の教育施設が2校ある。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育は義務ではないが、公立・私立の幼稚園がある。 ・公立の場合は幼稚園、私立の場合は乳幼児から入園できる保育園及び幼稚園からなっている。 ・公立・私立ともに、就学前10ヵ月にわたり入学前教育が行われるようになり、最近では多くの児童が通っている。
学校生活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・7月1日～16日の中間休暇と11月17日～2月13日の学年末休暇がある。 ・3月21日～25日はセマナ・サンタで休みである。キリスト教（主にカトリック）の関係で、1週間お店も休みになる。
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語、社会、算数、理科の教諭は常勤（担任が主に教える）であるが、図工、音楽、体育の教員はコスタリカ内

	<p>で不足しているため、非常勤である。数校掛け持ちで教えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に午前と午後の教職員が交代するので、職員がじっくり教材研究をする時間がない。 	
飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は年に3回行われる。 ・小学校1年から各学年の学期の最後に試験がある。前期40%、後期60%の合計で65点がボーダーラインで、教科の4つ以上を落とすと落第となる。3つまでなら再試験で、それも落とすと落第になる。そして、最終的に10%の児童が落第する。同じ学年は3回まで落ちることが認められている。それを超えると点数が足りなくても上の学年に上がることができる。 	
教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい学年から「道徳」の学習で「選挙」の教育をしている。選挙があるときは、子どもたちも「模擬選挙」を体験することができる。 ・理科の実験や観察はあまり行われていない。 	
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足はあるが希望者のみであり、高等部においては課外授業としてスポーツや文化活動も行われている。 	
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・給食制度が取り入れられている。 ・おやつなどを学校で売っている。 	
校則	<ul style="list-style-type: none"> ・公立学校は小学校が白、中学校は水色のシャツ、および紺のズボンが制服として定められている。私立学校は学校によって制服が異なる。 ・宿題は毎日2~3時間程度の量が出される。 ・校則は厳しく、遅刻3回で1点、不当な欠席で1点などの減点制度がある。 	
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス利用代金を支払う。 	
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後はスポーツをしたり、家の手伝いをしたりする。 	
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別ができない、「シ」と「チ」の区別ができない、「ヤ行」と「ジャ行」が混同する、「ハ行」の子音が脱落することがある。
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の家での常食は米（日本のような粘りが無い）パン、小豆に似た豆（フリホーレス）、とうもろこし、ユカ、プラタナなどと、牛肉、鶏肉である。 ・飲み物はフレッシュジュースやコーヒーがよく飲まれ、果

	<p>物は熱帯のものが種類、量ともに豊富で、りんごやぶどうも生産されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理には、バター、チーズ、ナティージャ（サワークリーム）、生クリーム、大豆油、豚の油をよく使う。オレガノやクラントロという香草も使う。
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・年中気温が平均して一定なので、日本のように衣替えという習慣もなく、四季折々の特別な服装もない。 ・季節によるのではなく、個人の好みによる服装で、全く自由であり、どちらかといえば、年齢にかかわらず色は華やかな原色が好まれる。 ・大変おしゃれをする人が多く、金属やプラスチック、布などで作られた装飾品の種類が豊富である。大部分の女子は生れた時からピアスをしている。 ・村のお祭りやカトリックの大事な儀式のときは、「カンペシーナ」という民族衣装を着る。 ・一般的な家には、寝室が 2~3 室あり、居間と食堂が続いて一緒になっており、更に台所、トイレ、シャワー室、物干し場などがある。 ・鉄筋にブロックを積み、モルタルでおおった造りが多く、床は板や石のタイルでできている。 ・屋根は火山の噴火と地震に備え、トタンがほとんどである。 ・サン・ホセ市内では、入口や窓を鉄格子でおおい、嚴重に鍵をかけている家が多く、窓はセロシヤという幅の狭いガラスを組み合わせたもので、日本のように窓をいっぱいには開けることはできない。 ・電気や水道はよほど生活条件の悪いところ以外はよく普及している。地震が多いせいか、ほとんどの家庭の台所はガスを使わず、炊事用の電熱器（コシーナ）を使っている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいときから「レディーファースト」の姿勢が身についている。 ・家族の絆がとても強く、親や兄弟を大事にする。自分の家族をほめることはしてもけなすことはなく、「謙遜」することはほとんどない。 ・名前のつけかたは日本と大きな違いがある。姓名は、名前・父方の姓・母方の姓でできている。響きのいい名前を好み、家系にその名前を残したいからという理由で、親子が母方の

		<p>姓を除いて全く同じ名前であったり、親戚で同じ名前ということがたくさんある。</p> <p>・日本については、経済大国、美しい自然、都市の巨大化、テクノロジーの発達、近代文化と伝統文化の混在などの印象のほか、ストレス問題があるという知識をもつ生徒もいる。</p>
--	--	---

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・サンホセ日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・海外子女教育財団
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・海外日本人学校勤務経験教員より